

# 10月定例山行・30周年記念(記録)

## 玉原高原鹿俣山 1636.7m(群馬県沼田市)

月 日 10月15日(土) 天気 曇り後晴れ

集 合 鶴瀬駅西口側旧はちや前 5時50分

アクセス 鶴瀬旧はちや前 6:30→関越自動車道・休憩上里 SA→沼田 IC より玉原高原森林  
キャンプ場 9:00 写真・トイレ・体操

A コース 出発 9:25→鹿俣山ルート分岐 11:40→山頂 11:50→分岐 12:00(食事)  
12:30→ブナ平分岐 13:50→センターハウス 14:20

復 路 センターハウス 14:30→鶴瀬はちや前 17:30(コース・アクセスと同じ)  
※ 標高差・419m(類型標高差上り、下りとも 549m)  
※ 歩行距離・9,7m 歩行時間・4時間10分

交通費 4,500円

参加者 30人(Aコース・24人 Bコース 6人)

班構成 ○印・班長

A コース 1班 ○笠原(さ)、古川、宮澤、佐藤、向井  
2班 ○笠原(恵)、大曾根、斎藤、土田、加藤(恵)  
3班 ○石塚、嶋村、加藤(芳)、伊志嶺、吉川(恵)  
4班 ○井野、手塚、福寿谷、高橋、大橋  
先頭・会田(SL)、最後尾・高草木(CL)、全体サポート・新井 カメラ・才田  
B コース ○吉田、狩野、吉岡、板垣、加藤(保)、榎原

### 記録・総括(A班)

◎ 健康観察後、バスに乗り込み、出発を待つ。5時50分ごろ、電車組から、「人身事故により、電車停車」という連絡が入った。かなりの遅れを想定していたが、約30分遅れで、出発することができた。ラインやメールで連絡が入り、落ち着いて判断することができ、ありがたかった。道路事情がスムーズで、目的地に、30分遅れで到着することができた。

Iさんの書いてくれた「峠山の会・30周年記念会山行」の看板を中心に30人参加の記念撮影、体操班デビューのMさんのリードで、体をほぐし、AB班が分かれて出発。

さわやかなブナ林(かなりの巨木)の中を、落ち葉を踏みながら、ゆっくり進む。それにしても、24人の列は長い！道は平たんで、所どころで休憩を入れながら、前後の間隔を調整する。紅葉をめでながら、最後の急登を登り、小さな広場に到着。荷物の番をKさんに頼み、頂上にひと上り。榛名山、赤城山などを眺め、広場に降りて楽しい昼食。日差しがあり、さわやかなそよ風に包まれて下山。Bコースのメンバーと再会し、センターハウスを予定通り14時30分、鶴瀬に17時30分に到着した。

- 人身事故の情報がすぐ入り、落ち着いて対応できた。いくつかの、出発時のハプニングなどを想定し、対応策を考えておくのも大事かと思う。
- 参加者が多数の場合、先頭と最後尾が離れてしまうということがよくある。見えなくなったら待つということを基本としたい。
- 体調が悪くなった場合、遠慮せずに、早めにリーダーや班員に伝えた方が、対処がスムーズにいく。

( 文責 高草木 )

## 30周年記念山行記録 B コース

尼ヶ禿山 (1466m) ~玉原湿原(1200m) 標高差約 260m

日 時 2022年10月15日 (土) 曇り~晴

参加者 吉田、吉岡、板垣、加藤 (保)、榎原、狩野

コースタイム ゲート 9:35~10:15 湿原入口・湿原環境センター—玉原湖—0:50分岐 (東大国際 SM) —10:55 鉄塔—11:20 尼ヶ禿山頂 (昼食) 12:00~12:50 (東大国際 SM) —玉原湖—13:15 湿原入口—湿原散策 (約30分) —14:00 ゲート着  
歩行時間 3時間40分 (休憩時間含む)

会員全員参加を目指し30周年記念山行の一つとして選ばれた玉原湿原、体調不良などで全員参加には至らなかったが、AB二手に分かれての山行となった。

私達Bコース (B班) はAコース班と別れ、Bコースゲートにバスで移動して出発した。久しぶりの山行とあっておしゃべりタイムが続く。歩いてまもなくカエルが合掌している「ブナの湧水」おいしそうに流れている・・・が目もくれない。(帰りには無事下山のお礼を兼ね板垣さん代表でカエルの大きな~手作りポケットにチャリ~ン! 手応えが~~)

時間的に余裕のあるB班はコースを尼ヶ禿山から玉原湿原と決め Aコースの下山時間に近づけるようにした。

歩行を進め最初に広く視界が開け目に入ってきたのは色づいた玉原湖、ここではゆつたりとシャタータイム。

玉原湖を後にしていよいよ下見のしていない尼ヶ禿山を目指す、みんな初めての山である。枯れ葉が続く山道は濡れ落ち葉で埋まり、あちらこちら苔がありうつかりするとコケル~! 足元の注意はどの山も同じである。時々吹く爽やかな風は何とも気持ちが良いし元気が出る。なだらかな登りの登山道、一貫としたなだらかが続くこのような登りで高度を上げ頂上に着いた。指標がハッキリ出でていない場所や分岐では周りの建物や略地図など見て判断、6人の結集力がバツチリ發揮された。

お花は珍しいツルリンドウが足元に、この時期ならではの、さまざまなキノコ達、中でも「これはナメコだね!」と言っていたら、「違うよ! 食べられるけど?? ナメコ」と教えてくれた。肝心の??名前は覚えられなかった。この時教えて下さった3世代親子 (男) さんとは湿原でもお会いした。

登り着いた山頂は狭く北側は森林で、西から東側は何もなく視界が良く榛名、

子持ち山など遠望出来た。

食後にまたしても出た！変なオジサン！

いつもの儀式をやりだす、シャボン玉のオジサンだ。どうもこの儀式が終わらないと、登頂したと認識できないらしい？（失礼！）

尼ガ禿山の頂上に登ってみてこの山の名前はもしかして・・？と・・家に帰り山の名前の由来を調べてみた。山頂の状況を合わせて想定していた通りであった。前から頭頂部に掛けて禿げ上がり後頭部は北側の森林・・いわゆる一般的なオジサンが尼ガ禿山となんら変わりないと変に納得。

下山は3代親子に教わった場所より少し下がった所から湿原に入ろうと思っていたが、どうもそこを見落したらしく登り始めの登山口のところへ出てしまった。行きに歩いた道の折返し歩行となり湿原入口の自然環境センターに着いた。ここには登山届が朝の置いた状態そのままであった。

いよいよお目当ての玉原湿原に足を踏み入れる。湿原の中はすっかり秋の装い、草紅葉が素晴らしい！誰ともなく「尾瀬ヶ原みたい！」と感動の声。

素晴らしい景色を堪能でき「この様な山行も有ね～・いいねえ～」の言葉が出た全体にゆったりとした記念山行でした。

#### 《記》

\*数か月も山歩きをしていなかったB班に「大変！キツイ！」などの声は聞こえなかった。

\*今回は下見無しの登山でしたが、下見するほどの山ではなく、山から湿原と家族で気軽に登れる歩けるコースだと思った。

\*全員参加の記念山行は高い山・低い山の二コースがベスト。

\*年齢層、経験層の巾があり、また休眠会員等の全員参加を目指す山行にはピッタリの選定された山でよかったです。

一特に反省点は無かったと思う一

記録 狩野